

平成24年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成24年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

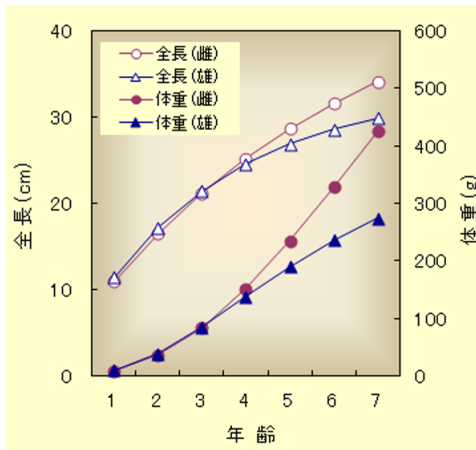
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳程度
成熟開始年齢: 2歳(40%)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類やイカ類、全長約18cmから魚類
捕食者: 不明

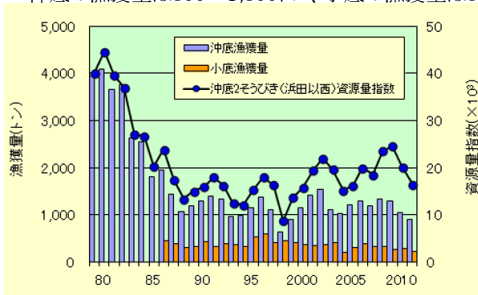


漁業の特徴

日本海南西部では、ムシガレイは底びき網、刺し網、延縄等で漁獲されるが、その殆どは浜田以西の2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によるものである。沖底のムシガレイ漁場は、対馬南西域から隠岐周辺に及ぶ。

漁獲の動向

1980年には沖底だけで4,000トンあった漁獲量は、1980年代前半に減少し現在まで低水準で推移している。近年の沖底の漁獲量は800～1,300トン、小底の漁獲量は300トン前後で、2011年の総漁獲量は1,126トンであった。



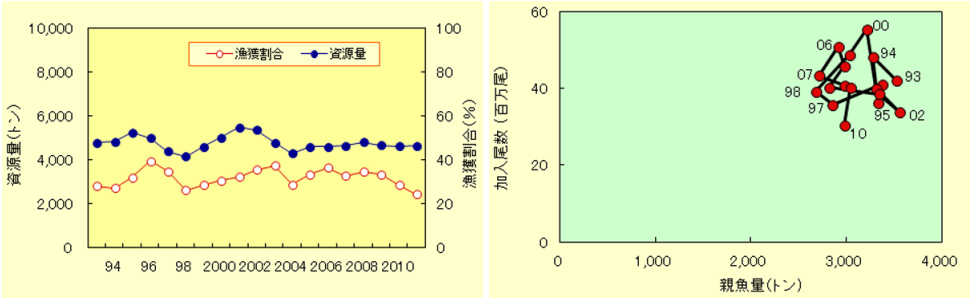
資源評価法

1993年以降については年齢別漁獲尾数によるコホート解析により資源量を推定した。これに加え1966年以降の日本海南西海域で操業する2そうびき沖底の漁獲成績報告書から資源密度指数、資源量指数等を算出した。

資源状態

漁獲量は1980年代前半に大きく減少し、近年も低い水準にあり、沖底の資源量指数は漁獲量と同様の変動を示す。コホート解析による資源量推定は1993年以降に限られ、加入量には年変動があるが、資源量と親魚量は安定して推移している。漁獲統計による努力量の指標値やコホート解析による漁獲割合は低下傾向を示している。



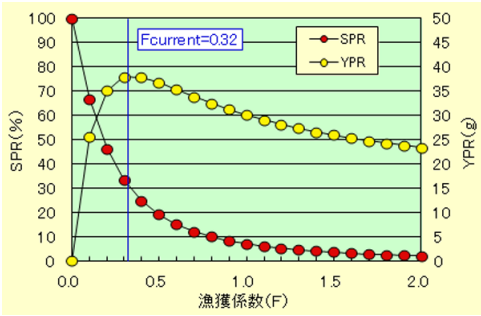


管理方策

資源量と親魚量は安定しており、近年の漁獲圧は比較的低い水準にある。今後の再生産関係がコホート解析を行った1993年以降の中央値で推移した場合、現状の漁獲圧であれば徐々に資源量と漁獲量が増加すると考えられることから、現状の漁獲圧を維持することが望ましい。ABC算定規則1-1)-(1)により、ABClimitはF2011を用い、また、不確実性を考慮したACBtargetは0.8F2011を用いて算定した。

	2013年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	13百トン	F2011	0.32	24%
ACBtarget	11百トン	0.8F2011	0.26	20%

- 漁獲割合はABC／資源量
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 資源量は安定しており、資源水準は中位、動向は横ばいである
- 漁獲圧は近年減少傾向が見られる

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲圧および近年の再生産成功率の下であれば、資源量・漁獲量ともに増加が期待できる
- 1、2歳魚の漁獲割合が60～80%と高いため、若齢魚の保護等について検討する必要がある